

26年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 6月20日～ 26年7月10日

2. 調査実施方法

全国の製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は19社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
入荷動向	スギ	△ 19.2	△ 11.5	19.2
	ヒノキ	△ 36.4	△ 31.8	9.1
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	—	—	—
消費動向	スギ	△ 3.8	△ 7.7	11.5
	ヒノキ	△ 36.4	△ 31.8	△ 4.5
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	—	—	—
在庫動向	スギ	△ 12.5	0.0	8.3
	ヒノキ	△ 40.9	△ 31.8	△ 9.1
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	—	—	—

スギ原木入荷は7,8月のやや減少が9月には増加に、ヒノキは7,8月の減少が9月にはやや増加に。

スギの消費は7月、8月やや減少を経て9月には増加に、ヒノキは減少傾向で推移するが9月はマイナス幅縮小。

スギの在庫は7月の減が8月の横ばいを経て、9月にはやや増に、ヒノキは減少傾向で推移するが9月にはマイナス幅縮小。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	26/7月	8月	9月
スギ	△ 19.2	0.0	19.2
ヒノキ	△ 4.5	9.1	22.7
カラマツ	—	—	—
トドマツ	—	—	—

スギ原木価格は7月の弱保合が9月に向け強保合に、ヒノキは7月のやや弱保合が9月に向け強保合に。

モニターからのコメント

(原木荷動き)・梅雨にもかかわらず、雨が少なくスギ及びヒノキ原木の入荷順調。消費は前月と変わらず。品質悪化のため丸太の在庫減らす。・スギ及びヒノキともに出材は天候次第。合板の調整の影響か中目は弱い。・出材減のため(梅雨)入荷減となる見通し。ヒノキ材は販売減のため消費減となる見通し。・在庫動向は、市場への入荷は減少も購買意欲がないので直送が多くなっている。・相場も以前の安い単価に戻り採算がとれない所まで来ているのが入荷減の最大の原因と思う。消費は、製品が売れないのでスギ、ヒノキともに調節して挽いているためやや減少。時期が悪く、原木を痛めるので全て挽き、出してしまうため在庫は減少(特にヒノキ)。・丸太入荷順調、今後虫害の心配あり、先月より今月はスギ材の消費を増やす。

・消費は継続的な安定生産のため変化なし。・7月、8月は雨期で減少、9月は天候もよく記念市など多くなり材の出荷が増加し、需要も出てくるし、気候もよく、残業を開始する。・スギ原木入荷は今月までは天候の影響でやや減少、梅雨が明ければ徐々に出てくると予想。生産は落とさずに主にKD柱中心に在庫積み増す。・販売が落ち込むので入荷量を減らす。販売量に応じて入荷をコントロール。基本的には消費は減少、販売量に応じて消費をコントロール。痛む時期なので在庫は持たない。・スギ原木は7～8月は虫害、台風の影響で入荷減少、9月からは製品の動き良くなり増加と予想。在庫も虫害懸念で減少。・市場への出材は材価低迷と虫害等で減少、製品荷動きも極端に悪く、メーカーの購買意欲もない。スギは公共事業用の注文で消費維持、ヒノキは在庫もしっかりあり、生産調整。

(原木価格) ・スギ、ヒノキ共に例年通り価格上昇となる予想。

- ・スギ、ヒノキ共価格横ばいも、全体的に入荷量少なく、ない物高の状況になる可能性も。
- ・スギは少し下げ後、横ばい、ヒノキは下げ。
- ・スギは丸太の集材不足の影響でやや上昇。
- ・ヒノキ丸太は天候と価格の問題でやや上昇と予想。
- ・スギ中目は下げ。
- ・製品売れず四苦八苦しているのに原木市場は理解しようとしていない。
- ・スギ、ヒノキ共出れば下がる。
- ・ヒノキの出荷量は減ると予想。
- ・スギ原木は、例年通りの動きと予想。
- ・値上がり前より安い水準まで下落が、丸太の出材非常に少なく若干強含んできた。

26年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
生産動向	スギ	4.2	4.2	16.7
	ヒノキ	△ 20.0	△ 10.0	20.0
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	—	—	—
出荷動向	スギ	△ 16.7	△ 8.3	12.5
	ヒノキ	△ 22.2	△ 11.1	5.6
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	—	—	—
在庫動向	スギ	29.2	33.3	4.2
	ヒノキ	25.0	30.0	5.0
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	—	—	—

スギ製材品の生産は若干増加傾向で推移、ヒノキは7月の減少が9月に向けやや増加に。

スギ及びヒノキ製材品の出荷は共に、7,8月のやや減少ないし減少が、9月にはやや増加。

スギ及びヒノキ製材品の在庫は、共に7,8月の増加が9月には、ほぼ横ばいに。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 45.8	△ 20.8	8.3
	柱角 KD12×3	△ 50.0	△ 20.8	4.2
	通し柱 12×6	△ 27.8	△ 5.6	5.6
	桁角	△ 20.0	△ 15.0	0.0
	母屋角	△ 40.0	△ 20.0	5.0
	タルキ	△ 33.3	△ 11.1	5.6
	間柱	△ 30.0	△ 20.0	0.0
	ヌキ	△ 27.8	△ 22.2	△ 5.6
	平割	△ 28.6	△ 14.3	7.1
	ラミナ	△ 33.3	△ 16.7	△ 16.7
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 66.7	△ 33.3
柱角 KD12×3		△ 50.0	△ 25.0	5.0
土台角 10.5×4		△ 55.0	△ 25.0	0.0
土台角 12×4		△ 55.0	△ 35.0	△ 10.0
通し柱 12×6		△ 33.3	△ 8.3	0.0
ラミナ		△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	—	—	—	
〃 ラミナ	—	—	—	
トドマツサンギ	—	—	—	

スギ柱角、通し柱、母屋、タルキ、ヌキ及び平割は7,8月の弱保合ないし弱含みが9月には保合に、桁、間柱及びラミナは7,8月の弱保合が9月にはやや弱保合に。

ヒノキ柱、通し柱及び土台10.5は7,8月の弱含みないし弱保合が9月には保合に、土台120、及びラミナは弱含みないし弱保合で推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・スギ製材品の売れ行き悪く在庫はやや増加。・スギ及びヒノキの丸太供給順調で生産は大きな変化なし。
- ・反動減続き、当用買いに徹する。・受注生産のためにやや増加の見通し、季節的に販売増となる見通し、スギは販売増のために在庫は減となるがヒノキは不振。・出荷は前年同月比変わらず。
- ・出荷は、ヒノキ荷動き悪い、スギまずまず。在庫は柱角主体→間柱を多くするよう今月から変更。
- ・生産は、秋需に備え在庫を増加させたいが、梅雨の影響もあり、丸太の集荷が手間取っている状況。
- ・9月から残業を開始する、7月、8月は生産出来ただけは売っていきたい、9月は需要が少し出てくると思うので出荷は増加と思う。・ヒノキ製材品の生産は先月から減少、出荷は6月から概ね変わらない見込み。
- ・梅雨期に入りヒノキ土台、柱などの動きが極端に悪くなってきた。
- ・7~8月中旬頃まではスギ製材品の動き弱く、8月連休後は注文増えると予想。在庫も8月以降動き、減ってくると思うが、未だ見当つかず。
- ・もっぱら注文材を製材、在庫をオクスペースに困る。スギは別注材出荷により量的に横ばい、柱類、特にヒノキ柱は悪い。在庫は満杯。

(製材品出荷価格動向)

・原木高。・スギ及びヒノキの製品売れず、1車単位での出荷が極めて少なくなった。製品売れず在庫積み増し。・スギ柱角は単価大幅下落、建築用スギ製品の荷動き悪く、出荷毎に単価引き下げが話題に。ヒノキは原木単価の下げ止まりで価格維持を唱えるも、大手の投げ売りで相場を下げ続けている。・スギ製材品は安値販売が散見される。在庫で頑張るべき。・ヒノキは需要がなくなってしまったので横ばいの見通し。

・スギの並材の動き悪いがKD材単価は若干の下げで推移、ヒノキ並材、土台、柱角など値上がり前の単価よりも弱くなってきた。・スギは需要低迷、九州あたりから安値材出回る、値上げ、値下げは九州から動く。ヒノキはスギより更に低迷、投げ売りのような単価を聞く。

26年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
仕入動向	米マツ丸太	50.0	0.0	25.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	50.0	0.0	25.0
	NZラジアータ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ原木の仕入は7月の増加が8月の横ばいを経て9月には増加に。
NZラジアータ原木の仕入れは、7月の横ばいが8,9月には減少に。

米マツ原木の消費は、7月の増加が8月の横ばいを経て9月は増加に。
NZラジアータ原木の消費は、減少傾向で推移。

米マツ丸太の在庫は横ばいで推移。
NZラジアータ原木の在庫は7月の横ばいが8,9月には増加に。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/7月	8月	9月
米マツ丸太	△ 50.0	△ 25.0	△ 25.0
NZラジアータ丸太	0.0	△ 50.0	△ 50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ原木購入価格は弱保合で推移。
NZラジアータ原木購入価格は7月の保合が8,9月には弱保合に。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・NZ材、梅雨時期にて木材注文量減。

(原木価格動向)

- ・NZ材多少下がる。

26年7月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
生産動向	米マツ製材品	50.0	0.0	25.0
	NZラジアータ製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	25.0	△ 25.0	50.0
	NZラジアータ製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	25.0	25.0	△ 25.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

米マツ製材品の生産は、7月の増加が8月の横ばいを経て9月には増加に。
NZラジアータ製材品の生産は減少傾向で推移。
米マツ製材品の出荷は7月の増加が8月の減少を経て9月には増加に。
NZラジアータ製材品の出荷は減少傾向で推移。
米マツ製材品の在庫は、7、8月の増加が9月には減少に。
NZラジアータ製材品の在庫は7月の横ばいが8、9月には増加に。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
米マツ平角		△ 25.0	0.0	0.0
米マツ正角		△ 50.0	△ 25.0	0.0
米マツ小割		△ 25.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		0.0	0.0	0.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

米マツ製材品の出荷価格は総じて7月の弱保合が9月に向け保合に。

NZ梱包材及び同土木用材は横ばいで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・米材出荷は当分変わらないと思う。
- ・NZ材、梅雨時期にて木材注文量減。

(製材品出荷価格動向)

- ・米マツ平角はRW次第、米マツ正角は米国現地挽次第。
- ・NZ材、変わらず。